

次世代オフィス環境

with ICT

Go!

セキュリティと利便性を兼備したICTインフラが描く 次世代オフィス環境

業 務効率向上やコミュニケーションの円滑化など、ICTが企業にもたらした利便性は計り知れない。しかしその一方で、情報漏洩(ろうえい)など企業の存続をも脅かすセキュリティ上のリスクはさらに増大している。優れた利便性と高度なセキュリティを融合したICTインフラとそれに基づく新しいオフィス環境の実現が企業に求められている。

セキュリティ上の脅威への対応と利便性向上をいかに両立するか

これまで企業では、主に従業員の業務効率の向上を目標に、ICTの利便性を高め、快適な利用環境を実現することを最大のテーマに、システムの整備・拡張を推進してきた。その結果、多くの企業では、オフィス内の従業員はもちろん、例えば営業担当者などが客先をはじめとする社外のような場所からノートパソコンや携帯端末などを介して、社内のシステムへ容易にアクセスできる環境が実現されるなど、ICTの利便性は大いに向上してきている。

しかしその一方で、近年のこうしたICTの利便性の高まりは、セキュリティ上の脅威というものを大きくクローズアップさせる結果ともなっている。システム脆弱(ぜいじゃく)性を突いた不正アクセスやウイルスの被害についての報告は後を絶たず、最近ではスパイウェアやフィッシング詐欺などが新たな脅威となるなど、その攻撃手法も技術の進展に歩調を合わせるかたちで常に変化を続けている。

また、こうしたネットワークを介した外部からのセキュリティ上の脅威に加え、最近特に問題となっているのが、社員や協力会社の従業員など企業の部内者を原因とする情報漏洩である。具体的には、故意による情報の持ち出しはもちろんだが、電子メールによる機密情報の誤送信、あるいは業務上の必要から持ち出したノートパソコンやUSBメモリの紛失といった不注意や

リテラシーの欠如による情報漏洩も重大なセキュリティ上の事案となっている。昨今、たびたび新聞紙上ににぎわしている顧客情報の漏洩事件のほとんどが、実はこうした内部的な脅威によるものである。そのことに企業の経営者は大きな注意を払う必要がある。もちろん、「個人情報保護法」や来るべき「日本版SOX法」に対するコンプライアンスの観点からも、こうした脅威への対策は必須の要件となる。

ここにおいて重要な鍵となるのは、言うまでもなく、ビジネスにおけるICTの利便性を享受しながらも、こうしたセキュリティ上の事案にも万全な対策がとれるICTインフラを確立すること。そして、それに基づくオフィス環境をいかに整備するかの。伊藤忠テクノサイエンス(CTC)が構築した最新の社内情報インフラ「eWork@CTC(イーワーク・アット・シーティーシー)」はまさに、そうした次世代のオフィスの姿を具現化したものである。

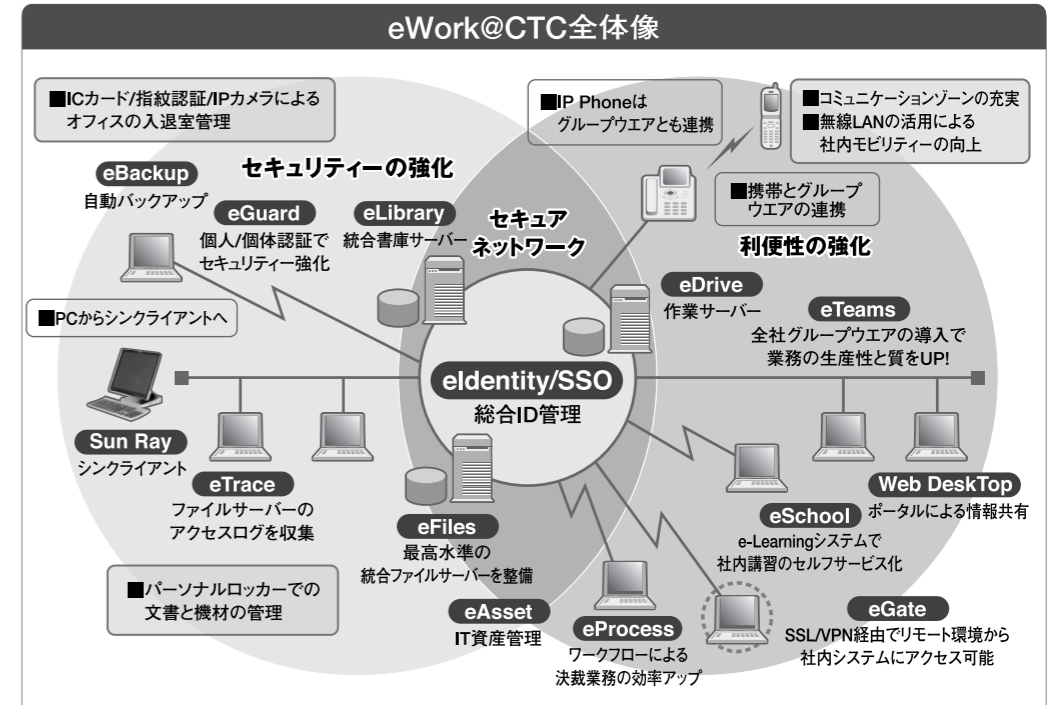
顧客サービス向上を目指した経営改革プロジェクトが基盤

「eWork@CTC」は、伊藤忠テクノサイエンスが顧客密着型サービスのさらなる品質向上と、その前提となる業務の効率化・生産性向上を目指した経営改革プロジェクトの実践を通して生み出されたものだ。伊藤忠テクノサイエンスでは、このプロジェクトの一環として、営業と技術者が一体となって活動できる組織体制に変

更するとともに、東京地区に分散していたオフィスを霞が関の本社オフィスに統合した。またそれに合わせて、ICTインフラの見直しを図っている。そこで重要な課題となったのが、まさに「セキュリティ強化」と「利便性向上」をいかに両立させるかということだった。これに関連して、伊藤忠テクノサイエンスでは以前よりセキュリティ維持の観点から、社内のパソコンの持ち出しを全面的に規制するといった措置を講じてきたが、それによって業務効率やビジネスの機動性が犠牲にされてしまう局面も多かったという。「eWork@CTC」では、こうした問題を解消し、一見相反するかに見えるこれら2つのテーマを互いにトレードオフすることなく実現していることが最大の特徴となっている。

具体的な取り組みとしては、本社オフィスの6つのフロアにまたがる大規模ネットワークを構築するとともに、データを全社共有の統合ファイルサーバーで一元管理し、クライアントには機密情報やデータを分散保持しないような考慮がなされている。さらに、ネットワークの接続にはICカードによる個人認証を行うとともに、すべてのサーバーや端末などをシステムに登録し、それに基づく機器の個人認証も実施している。また、よりセキュアな情報管理が求められる部署ではシンクライアント「Sun Ray」を導入するなど、情報の流出を回避する万全の体制が整えられている。

こうしたセキュリティの強化と並行して、「eWork@CTC」では統合化されたグループウェアやポータルを実現することにより、社員間の情報共有やコミュニケーションの円滑化を図り、個々の業務効率を向上させるための様々な仕組みが導入されている。特に、グループアドレス制とIPフォンの導入は、利便性向上のうえで大きな成果を上げている。これは、社員がIPフォン



にログインしてネットワークに接続すれば、場所を問わず作業が行えるという環境を提供するものだ。その結果、社員はオフィスに自分の席というものを持たず、その日に座った席を必要な時間だけ利用するというかたちとなる。このことで、特に外出の多い部署の省スペース化や、場所を意識しない独創的なワークスペース活用の可能性を広げている。そのほか、無線LANの導入により、オフィス内でのネットワークへのアクセスについての利便性も大きく向上している。

社内実践をショーケース化し顧客に最適なソリューションを提案

2005年1月に社内でのサービスを開始したこの「eWork@CTC」は、伊藤忠テクノサイエンスのみならず将来に向けた新しいオフィス環境を目指すあらゆる企業にとっても、極めて有効な事例となる。伊藤忠テクノサイエンスではシステムインテグレーターとしての立場から、

「eWork@CTC」構築における自社の実践をショーケース化し、その実績をベースとして顧客企業に向けての最適なソリューションを提案していく構えだ。そうした観点から同社では、この先進のICTインフラに基づくオフィス環境を公開する「オフィスツアー」と呼ばれるプレゼンテーションを随時実施しており、既に延べ200社を超える企業が参加している。

将来的なビジョンとして伊藤忠テクノサイエンスは、出張・外出先においても社員が自分のパソコン環境にログインできる「タッチダウンオフィス」の開設、さらにその先にはテレワークによる在宅勤務など新しいワークスタイルの創出、次世代セキュアオフィス環境の実現を「eWork@CTC」の射程に据えている。

シンクライアント「Sun Ray」▶

